

もみじ

—広島山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 中国高校登山大会 (10/27~29 鳥取県氷ノ山) 報告
2. クライミングスクール (11/19 三倉岳) 報告
3. 広島市消防局山岳救助対応研修 (11/17 安佐北消防署) 報告
4. ありんこチーム活動 (9/22~24 祖母山・由布岳) 報告
5. 寄稿『上原民樹様のご逝去を悼む』
6. 岳連短信 (寄贈御礼、11~12月の行事予定)

1. 中国高校登山大会報告

(県高体連登山部事務局長 内藤 弘泰)

令和 5 年 10 月 27 日(金)~29 日(日)で、鳥取県の氷ノ山で、第 63 回中国高等学校登山大会が行われました。

例年ならば中国 5 県のそれぞれの県予選で男女 6 位以上に入賞した学校が出場できるのですが、開催県の感染症対策で、各県男女 3 チームずつという制約での開催となりました。

広島県からは、男子が広島学院高校、修道高校、安古市高校、女子はノートルダム清心高校、県立広島高校、五日市高校が出場しました。

1 日目は、登山知識や天気図などのペーパー試験と、テント設営技術の審査が行われました。感染症対策でテントでの幕営はせず、高原の宿・氷太くに宿泊しました。2 日目はチームごとに氷ノ山への登山でしたが、すっかりしない天気で、山頂付近は霧で何も見えず、強い風でどんどん体温を奪われました。この時期の登山では防寒対策が大切である

ことを、身をもって学ぶことが出来たと思います。下山後は宿舎のお風呂にも入浴して、ゆっくりとすごすことができました。3 日目の講演では、自衛隊で気象予報の仕事をしておられる講師の方から、気象知識のポイントや、天災を避けるための気象予報の大切さをお話いただきました。

広島県勢の結果は以下の通りです。

男子 1 位 広島学院(99.7 点) 7 位 修道(96.7 点) 14 位 安古市(87.3 点)
女子 7 位 ND 清心(93.1 点) 9 位 県立広島(90.0 点) 12 位 五日市(29.1 点)

優勝した広島学院の選手の感想文を、以下でご紹介します。

『中国大会を通して』

(広島学院高校 1 年 CL 奈良定克拓)

僕たちは中国大会予選で多くのミスをしてしまいました。しかしそのおかげで問題点を知って向き合うことができ、今回のような高得点での優勝が達成できたのだと思います。

大会本番の山行は全く良い天気ではありませんでした。凍えるような風が吹き、さらに霧がかかるという状況でした。僕たちは下見の時の晴れの氷ノ山しか知らなかったのが新鮮な気持ちで登ることができました。途中、タイムが厳しいところもありましたがなんとか乗り越えられました。結果が気になりどきどきしながら受け取りに行った審査物は、筆記試験以外満点でかなりホッとしました。

この経験を活かし来年こそはインターハイで優秀な成績を残したいです。来年も顧問の先生、保護者の皆さん、そして先輩方、協力お願いします！

『中国大会を終えて』

(広島学院高校 1 年 SL 心石連斗)

まず始めに、今回の中国大会を運営してくださり、本当にありがとうございました。そして下見に連れて行ってくれたりした家族にも感謝でいっぱいです。

今回の大会は前日の午後に M2 が体調不良で出場できなくなるという大きなハプニングのもとに始まりました。ずっと一緒に練習してきた仲だったのでとても残念でしたが、彼の事前の準備のおかげで記録書で満点を取ることができて、優勝につながりました。代わりの M2 もたった 1 日で準備してくれました。

大会本番は朝から濃い霧が出ていましたが、普段とは違う山の雰囲気がとても楽しかったです。雨と霧のおかげで苔もとても綺麗でした。

閉会式後も他校と交流できていろんな刺激をもらいました。今後もこの大会の経験を活かして山に登って行こうと思います。

氷ノ山は僕が今まで登った山の中で一番高い山なのですが、最高の思い出になりました。

(広島学院高校 1 年 M1 高澤鷹一)

まず、この大会を開催してくれた方々、先生、先輩、家族、そしてチームのみんなに感謝したいと思います。おかげで、大会を無事に終えることができました。本当にありがとうございました。大会の前日に、メンバーが体調不良になるというハプニングがあったりもしましたが無事勝つことができて本当に良かったです。

この大会では、多くの反省すべきことや気づきがありました。その中でも特に大切だと思ったことは、実行可能な計画を立てる計画性を持つことです。大会の準備の時には、自分が無茶な予定を組んでそれがミスにつながりチームのみんなに迷惑をかけることがたびたびありました。また、無茶な予定は疲労の蓄積につながり、体調の悪化やパフォーマンスの低下につながっていたと思います。自分の出せる最大限の能力を発揮するためにはしっかりと計画性が必要だとわかりました。

この大会では多くの貴重な体験をすることができ

たと思います。この大会で学んだことを生かすことができるようこれからも頑張っていきたいです。

『中国大会に出させてもらって』

(広島学院高校 1 年 M2 富田悠生)

最初に、今回の中国大会に関わった全ての皆様に心より感謝の意を申し上げます。そしてこれまで自分を支えてくださった両親や顧問にも感謝でいっぱいです。

もともと自分は予選の時は B1 隊でしたので出場する予定はありませんでしたが、本戦前日に A 隊の M2 が体調不良で出れなくなるというハプニングがあり、急遽出ることになりました。とはいえ下見にも行っただけで準備期間が短い上、自分は隊の中で一番体力がないので、本当に大丈夫かな、とはずっと思っていました。

大会本番中は「失点して隊に迷惑をかけない」それ以外のことは一切考えていませんでした。そのせいで本来は自分がやるべき記録書などを他のメンバーに押し付けてしまいました。やってくれたメンバー、そして事前に入念に準備をしておいてくれた本来出る予定だったメンバーには本当に感謝しかありません。

今回登った氷ノ山は自分が登った一番高い山です。今回の経験はまた次の大会に生きてくると思います。この大会は一生忘れられないものになるでしょう。



氷ノ山から氷ノ越に向けて下山する広島学院チーム

2. クライミングスクール報告

(指導部長 森本 寛)

第 8 回 11/19(日)

山城：三倉岳、中ノ岳と B コース 7 合目

人数：22 名 (スタッフ含)

受講生 6 名は 2 パーティで中ノ岳マルチピッチクライミングをおこない、受講生 7 名は B コース 7 合目でトップロープでバックアップした状態でのリードクライミング及びビレイの練習と終了点結び替えの講習をおこないました。(指導部 塩田 徹)

【感想文】

『クライミングスクール (最終回 2023. 11. 19) 』

(受講生 島本 章生)

1. 今回の講習の内容

本年度、最終回のクライミングスクールとなる今回、前日の悪天候が嘘のように晴天に恵まれた。前回の 2 組が交代し、1 組は中ノ岳のマルチピッチの実践で、別の組がリードを想定したクライミング(シングル)とロープワークの指導を受けた。

私を含む 6 人は、後者であり、「門前払い」と「池本クラック」のルートにて、カムを設置しながら上がり、残置支点へロープを掛けてローダウンする。リードビレイの役割は重要で、クライマーの一挙一動を観察しながらロープを操作する必要がある。ロープワーク講習は、構築したトップの支点のカラビナなどの回収方法だった。実際の場面では、登り切った場所には誰もいないはずで、高度もあるため、ミスをすると命取りになる。そのため、慎重かつ正確に行わなければならない。もちろん、それを聞く受講生は、真剣そのものであった。

午後三時半くらいにマルチピッチ組が下りてきた。全員のやり切った満足と、終わった安堵が入り混じった笑顔がとても印象的だった。

2. 前日のキャンプ

前日の夜は、指導員の方々がキャンプを設営してくださり、任意参加ながらも多くの指導員と受講生が参加し、焚火を囲い、酒を酌み交わした。貴重な話を聞くことができたし、たわいもない話も楽しく



寒い中、山中で待機する審査員もちょっと辛い



三ノ丸から望む氷ノ山



自然探勝路コースで読図定点を確認する選手たち

より懇親が深まったように思う。楽しさのあまり、飲み過ぎてしまった受講生もおられた。その方は、翌日、皆にいじられ、愛されキャラになっていた。

3. 二年にわたるスクールを終えて

私は、昨年から参加したので、二年のスクールを終えたことになる。昨年の第1回目、エイトノットをその場で教えて貰いながら、知識も技術もない状態で力任せに岩に向かい、なんと、1本目で肋骨を骨折していたことを数日後に知った。手足も傷だらけで、指の腹もヒリヒリ痛かったのも覚えている。それから、全15回(本年度1回欠席)を終えて、我ながら随分と上手くなったと思う。私は、ジムにも通うことなく、スクールだけのクライミングでありながらも、上がれなかった岩壁を上れるようになったことは嬉しい。これは、指導員の熱心なご指導と、参加した仲間の励ましのお陰である。

まず、指導員の指導は、毎回長い時間、マンツーマンに近い状態で丁寧に、しかも、何度でも決して苛立つことはなく、親切だった。皆がそうであるように、私も指導員に対する信頼は、相当に高く、それが受講生の高出席率と上達に表れたように思う。

次に、仲間の支えは、心理的なプラスになった。受講生同士も回を重ねるごとにお互いを知り、そして、励まし合うことで、毎回のプレッシャーが和らいだであろうし、最終のマルチピッチによる三倉岳中ノ岳の頂上に到達できた高揚感は、一層、受講生のクライミングムードを押し上げた。

4. 指導員からの最後の言葉

最終回を迎え、私は、これが最後のクライミングになるだろうと思っていた。いや、そう決めていた。最後の解散式にて、塩田リーダーをはじめとする指導員の皆が言われた「クライミングを続けてください。それが願いです」の言葉が耳から離れない。指導員及び受講生の皆様、価値ある経験を与えていただき本当にありがとうございました。

『クライミングスクールを終えて』

(受講生 小林 響子)

私が山登りを始めたのは20才の時、ファースト登山は三倉岳縦走でした。コンバースのスニーカーでお気楽に来て大変な思いをしました。その時にこの山には二度と来るまいと誓いましたが、時を経てクライミングで再び訪れることになりました。

元来山好きではありますが、斜面、岩、滑る、高い、これらが最大の苦手なもので、それを克服したく、今年度は学びの1年にしようと決意し、クライミングスクールに参加させて頂きましたが、全てがショックの一言、自分がこんなに何もできない事や、初体験が多く、何故このスクールに参加したのか、大変な後悔と今後の不安でクライミングスクールが近づいてくると憂鬱な気持ちになりました。回を重ねるうちに受講生の方々と言葉を交わすようになり、皆さんやっぱり憂鬱な気持ちだということを知り、自分だけじゃなかったのだと思えるようになってからは少し気持ちが楽になりました。

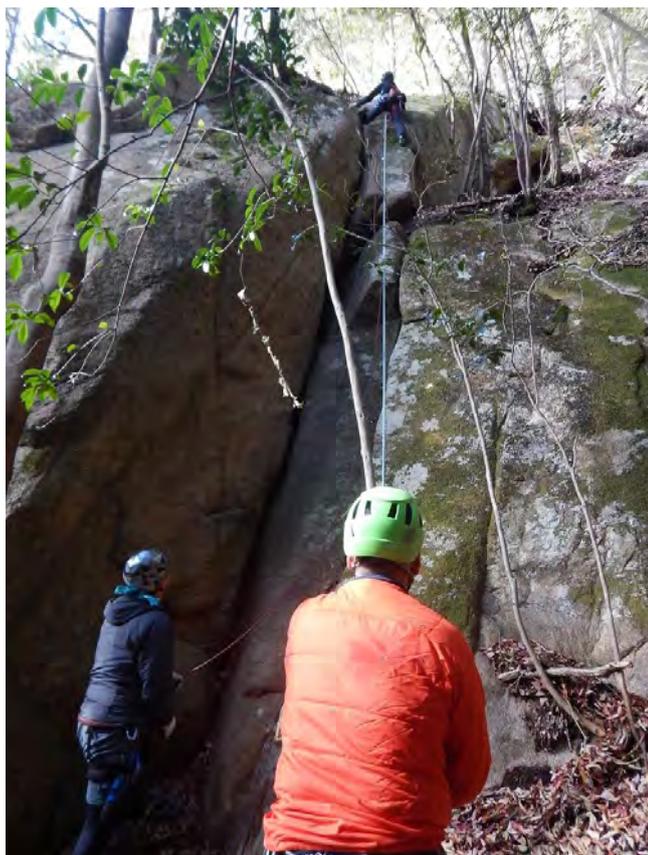
全8回では目の前のことに必死過ぎて、未だに用語やコース名等もまともに覚えていません。ですが目の前のことに必死に食らいつくことの大切さ、諦めない事を諸先輩方の姿から学びました。それは私にとって大変大きなこととなっています。

正直未だクライミングの楽しさは分かりません。ですので、来年もスクールが開催される様でしたら参加させて頂く予定です。講師の先生方、今年度のスクールでのご指導、本当にありがとうございました。落ちこぼれ生徒ですが来年もよろしくお願い致します。

ご一緒させて頂いた受講生の皆様、本当にありがとうございました。皆さんのお陰で頑張れました！感謝！！

(次頁写真提供 塩田)

最初の2枚は七合目で、あとの4枚は中の岳マルチ



3. 広島市消防局山岳救助対応研修報告

(指導部長 森本 寛)

日時：11月17日(金)

受講者：広島市消防職員 50名

場所：広島市安佐北消防署講堂

11月17日(金) 広島市安佐北消防署講堂にて「広島市消防局 山岳救助対応研修」が行われました。広島市消防職員 50名の方が受講されました。

広島市消防局から弊連盟に講師の派遣依頼がありましたので指導部からの派遣要員として私が参加致しました。

この数年間、広島市安佐北消防署警防課の方への講習や合同訓練を実施してきましたが、それらの活動が実績として少しずつ実を結んでいると思います。

研修内容としましては、山岳救助用に読図講習をおこなって欲しいという事でした。

普段の登山者向けの講習とは違い、救助者向けの講習である事から専門的な部分は省略し短時間で出来るだけ多くの情報を提供できる様な内容に致しました。

1. 山岳遭難事故の概況説明、山の地形の特徴、ナビゲーション技術の必要性
2. 登山地図と地形図の基本説明、地形を読むためのポイント
3. 登山向けコミュニティサイトからの情報収集する方法
4. スマホ用登山 GPS アプリの基本操作
5. 登山者向け地図ソフトから地形図をプリントする方法
6. 地形図とコンパスを使って進行方向を調べる方法についての講習をおこないました。

受講者から「災害活動での参考にできる内容で、大変有意義だった」との言葉を頂きました。

多くの救助者の方に集まって頂き受講頂きました事は、私たち登山者にとってとても頼もしいと思いました。その反面、この方々が山岳救助に出動しなくて済む様に、なお一層「安全登山」を心がけなければならないと思いました。

(右上写真提供 広島市消防局)



4. ありんこチーム活動報告

(顧問・個人会員 岡谷 良信)

参加者の感想文と写真です。

『チームありんこ 9月の山行・祖母山&由布岳』

(個人会員 松井 良子)

9月は参加者6名で祖母山と由布岳、登山口発着登山です。

9月22日(金曜日)、広島を出発し祖母山神原登山口を目指し、近くの路上で仮眠。翌23日(土曜日)、早朝6時、爆竹と通行人の声掛けで車を集会所前まで移動。この日は、健男霜凝日子神社と穴森神社の合同で、白熊と獅子が神輿のお供をして遥拝所では、例大祭(秋祭り)が盛大に行われるとのこと。下山後、『民宿清流』の対岸の神社からは、太鼓の音が聞こえていました。(例大祭については、今回検索)

神原登山口一合目駐車場から登山開始。遊歩道脇の「御社の滝」を過ぎると五合目小屋。そこからは、丸木段の道、ブナやミズナラ、ヒメシャラなどの巨大林の急登を過ぎ、稜線上の国観峠へ。あいにくの天気からここから祖母山山頂は望めません。国観峠を出ると道は険しくなり、九合目小屋の分岐点、風穴コースからの合流点を過ぎ、山頂へ着きました。雲が多く阿蘇や九重の展望は残念でしたが、雲の合間の写真撮影会は賑やかなものとなりました。復路は九合目小屋を経由し往路を戻ります。

宿泊先の『民宿清流』は檜のお風呂とフレンチ懐石、ゆったりとした時間が過ぎていきます。翌日は4時30分からの朝食、希望も聞き入れてくださり、おばあち

ゃんのお弁当を持って宿を後にしました。

由布は多くの観光客です。表面登山口から牧野道を進み、樹林帯を進んで合野越に到着。そこからのジグザグ道は日差しが強く、見晴らしも良くて飯盛ヶ城、湯布院盆地、遠景には九重山の連なりが見えました。傾斜の強い登りを過ぎたらマタエに到着。風が強く防寒着とヘルメットを装着して障子戸とよばれるクサリ場を登り西峰の山頂へ到着。360度のパノラマが楽しめました。マタエまでの下りは渋滞で、計画通り進めません。予定時間を過ぎ、少し急いで下山。露天風呂に浸かりながら由布岳を眺めることができる由布岳温泉でさっぱりして、一路、広島へ向かいました。

3日間にわたる九州遠征、移動時間・行動時間が計画通りに行かなかったことは反省点として次回への課題となりました。参加者全員が初めての祖母山、マタエからのクサリ場など貴重な経験をすることができました。参加者の皆様、ありがとうございました。

行動時間報告

9月22日(金曜日)

広島出発 20時30分==

9月23日(土曜日) 行動時間：7時間57分

祖母山神原登山口 8時15分～国観峠 11時7分～祖母山山頂 12時7分

九合目小屋 13時14分～祖母山神原登山口 16時12分
== 民宿清流 17時到着

9月24日(日曜日) 行動時間：5時間16分

由布岳正面登山口 7時54分～マタエ 10時01分～由布岳・西峰山頂 10時39分

マタエ 11時25分～由布岳正面登山口 13時10分==
広島到着 20時15分



5. 寄稿『哀悼!上原民樹様のご逝去を悼む』

(広島三峰会会長 小方 重明)



上原民樹様が令和 5 年 8 月 23 日に亡くなられました。享年 75 歳でした。突然の訃報に驚き、また残念で堪りません。

彼は広島三峰会に 2014 年(令和 27 年)に入会され、昨年頃から例会山行や月例会に参加されなくなり、今年(令和 5 年)の 4 月に正式に退会したいとの連絡が入りました。奥様の話によると 6 月に胃癌が発覚し、即入院されましたが 2 ヶ月後に亡くなられたそうです。余りにも早い死に驚くばかりです。

上原さんは卓越した登山家で、日本スポーツ協会公認山岳コーチⅡ(山岳上級指導員)の資格を持っておられ、広島県山岳・スポーツクライミング連盟で登山教室の指導、そして広島三峰会では例会山行で雪山・クライミング等の指導をされました。なかでも 2018 年(平成 30 年)2 月の深入山で、雪山滑落防止やビバークの方法や埋雪体験など、雪山登山の楽しさや厳しさを上原さんから学べたことは有意義な体験でした。また広島三峰会の会誌『やぶこぎ』に登山記録「槍ヶ岳北鎌尾根」「古希の思い出」を投稿され、一基本を見直そう一では雪山の装備・体力の維持向上・緊急避難など一貫して登山技術の基本について投稿していただきました。

彼が残した登山技術とノウハウは、会の後人私たちが受け継いでいきます。上原さん、本当にありがとうございました。天国でやすらかに眠り下さい。南無阿弥陀仏・・・合掌。

上原さん例会山行アルバム



6. 岳連短信

- (11/27) 広島山稜会『峠通信』773（11月号）
(12/13) 広島やまびこ会『やまびこ』805（12月号）
(12/16) 三原山の会『筆影』No. 525（12月号）
11/24『中信高校山岳部かわらばん』734

2. 11～12月の行事予定

- 12/23～24 第14回全国高校選抜S C選手権（埼玉県
加須市）
1/7 新年互礼登山（宮島）

編集部より

- この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。
- 会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。
- この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。